

岡田利規初の日韓共同制作作品
韓国／光州での初演を経て、いよいよ日本初演！！

God Bless Baseball



テーマは「野球」、そして「アメリカ」
舞台上の小さなダイヤモンドで飛び交う野球談義から浮かび上がる
大きな物語と、その先への想像
高嶺格の舞台美術とのダイナミックな競演

フェスティバル／トーキョー公演
2015年11月19日（木）～29日（日）@あうるすぽっと

作・演出：岡田利規

出演：イ・ユンジェ、掬子ぴじん、ウィ・ソンヒ、野津あおい

舞台美術：高嶺格

衣裳：藤谷香子（FAIFAI）

ドラマトゥルク：金山寿甲（東葛スポーツ）、イ・ホンイ

precog <http://precog-jp.net/>

150-0013 東京都渋谷区恵比寿 2-17-16-1F

TEL : 03-6825-1223 FAX : 03-5795-2602

info@precog-jp.net

担当：中村茜、黄木多美子、ケティング菜々、兵藤茉衣

作品について

演劇カンパニー「チェルフィッチュ」の主宰・劇作家として、現代社会に生きる人々を独自の言語と身体感覚を用いて鮮やかに描き、2011年の震災後も日本の社会状況を露わに批評した作品を発表してきた岡田利規。本作では、2015年9月に韓国・光州にオープンしたAsian Arts Theatreからの委嘱を受け、初めて日本人以外の俳優との創作に臨みました。「日韓共同制作」という枠組みでしか描けない物語とその表象を、身近な「野球」を題材にすることで最大限に追求し、「アメリカ」という巨大な存在との関係性について、これまでにないスケールで社会への重要な問いを投げかけます。

野球から見つめる「父」なるアメリカと「兄弟」としての日韓／次なるパラダイムへの想像

日韓のみならず、アジアの近現代史に計り知れない影響を及ぼしてきたアメリカ。劇中で語られる野球にまつわるごくパーソナルな父と子の思い出話は、やがてその巨大な存在との過去・現在・未来を見つめる大きな歴史の物語に重なっていきます。そしてアメリカという父性からの脱却への道が、まるで冗談のように存在する「イチローのニセもの」によって与えられる背番号「51」から展開する演劇的仕掛けや、高嶺格の舞台美術によるダイナミックな効果によって暗示されるとき、私たちは「想像力」という可能性を目の当たりにします。

日韓コラボレーションならではの新たな視座の獲得

劇中、韓国人の役者は日本人の役を、日本人の役者は韓国人の役を演じるという設定により、自国の歴史や文化について互いに客観的に捉える仕掛けが施されるとともに、アメリカの象徴である英語もまた効果的に用いられます。こうした言葉の扱い方によって仕掛けられた関係性の複雑にして軽やかな表象は、岡田がこれまで培ってきたアイディアや演劇的方法を、この枠組みでしかできないやり方によって昇華させた新たな試みともいえるでしょう。また、最後まで日本人とも韓国人とも明らかにされないひとりの女は、「国家」という概念から自由な存在として私たちに想像の飛躍を促す、まだ見ぬ未来の象徴として存在します。

新鮮なキャスト／スタッフ陣とのクリエイション

今回、これまでのチェルフィッチュ作品とはまったく異なるキャスト／スタッフとともにクリエイションに臨み、これまでにない作品の色と広がりを生みました。初めての共同作業となる二人の韓国人キャストは、演出家・多田淳之介氏の作品にも多く参加する実力派のイ・ユンジェと、圧倒的に独特な存在感と身体性で、国籍を明らかにしない重要な役を演じるウィ・ソンヒ。日本人キャストには、舞踏をルーツに独自の活動を展開する注目のダンサー振子びじんと、劇団サンプル所属で、多くの注目の若手演出家の作品に参加する野津あおい。舞台美術に、現代社会に潜む支配や抑圧のシステムに対して批評的かつユーモアあふれる作品を発表し続ける現代美術家の高嶺格。衣裳には現在若手の劇団から絶大な信頼を得る、パフォーマンス集団 FAIFAI の藤谷香子、ドラマトゥルクには、ヒップホップカルチャーへの傾倒とシニカルな作風で演劇シーンにおいて特異な立ち位置を確立する東葛スポーツ主宰の金山寿甲と、日韓の現代演劇において翻訳家・ドラマトゥルクとして柔軟に活躍するイ・ホンイを迎えました。

<あらすじ>

野球のルールを知らないふたりの女子。彼女たちに一所懸命ルールを説明しようとする男（しかし彼は野球が嫌いだという）。それから、人生になぞらえて野球を語るイチロー（あるいはその偽物？）。日本語／韓国語／英語が入り混じるなか、舞台は限りなくユルいノリで展開。やがて舞台は不気味な予兆をまといはじめる。野球にまつわる日韓男女の個人的なエピソードは、両国の上にある、背後にある、内部にある存在「アメリカ」というテーマへと収斂していく。

クリエイションメンバー

作・演出：岡田利規（演劇作家・小説家・チェルフィッチュ主宰）



1973年 横浜生まれ、熊本在住。演劇作家/小説家/チェルフィッチュ主宰。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。05年『三月の5日間』で第49回岸田國土戯曲賞を受賞。同年7月『クーラー』で「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005一次代を担う振付家の発掘一」最終選考会に出場。07年デビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を新潮社より発表し、翌年第二回大江健三郎賞受賞。12年より、岸田國土戯曲賞の審査員を務める。13年には初の演劇論集『遊行 変形していくための演劇論』、14年には戯曲集『現在地』を河出書房新社より刊行。16年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピーレ（ドイツ）のレパートリー作品の演出を3シーズンにわたって務めることが決定している。

舞台美術：高嶺格



1968年鹿児島県生まれ、美術家、演出家。京都市立芸術大学工芸科漆工専攻を卒業後、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) 修了。1990年代初頭よりダムタイプの活動に参加、その後も、パフォーマンス、ビデオ、インスタレーション、舞台演出など多様な表現手法を用いて国内外で多数の作品を発表中。著作『在日の恋人』（2008年 河出書房新社）他。

写真：“God Bless America” (2002)

※本作より着想を得て、タイトルもこれに準えた。

ドラマトゥルク：金山寿甲（東葛スポーツ）

2008年より、自身が主宰する演劇ユニットの東葛スポーツにて活動を開始し、これまで10本の本公演に加え、吾妻橋ダンスクロッシングやエクス・ボナイトなどのイベントにも参加。ジャンル無用に折り重なるネタ元からのサンプリングや、ラップ調で語られる台詞回し、ステージ上で自らもDJ/VJを務めるなど、ヒップホップカルチャーへの傾倒とシニカルな作風が特徴で、現在の演劇シーンにおいて特異な立ち位置を確立する。

衣裳：藤谷香子（FAIFAI）

1981年生まれ。FAIFAIメンバーであり衣装デザイナーとして舞台を中心に活動。作家/観賞者の個人の主観的テキストに介入し、別の地域・時代・ジャンルから特異性を持つアイテムをコラージュする制作スタイルをとる。参加作品に、柴幸男等の舞台作品、白神ももこ等ダンス作品があり舞台衣装以外にWS、映画やTV番組でも衣装制作を行い音楽家のライブ衣装も手がける。美術作家の金氏徹平、目とも作品制作を行う。

俳優：

イ・ユンジェ 1972年生まれ。ソウル大学卒業後に自身の劇団「踊る小人」を立ち上げ、身体劇中心の公演を行なう。2006年に演出家 多田淳之介の「ロミオとジュリエット」や「かもめ」、鈴木忠志の「エレクトラ」などに参加。演出家ソン・ギウン「小説家クボ氏の1日」に出演後、劇団 第12言語演劇スタジオに所属。

ウィ・ソンヒ 1984年生まれ、テジン大学で哲学科を専攻。副専攻で演劇を学び演劇的な言語を探求する劇団で活動。2011年「乾燥された独白」で創作活動をはじめ、劇場や芸術祭合わせ4会場で上演。2013年には身体のイメージをコラージュした「体の場合」を光州のアジア文化マルにて上演。役者のみならず演出や振付、ドラマトゥルクとしても活動している。

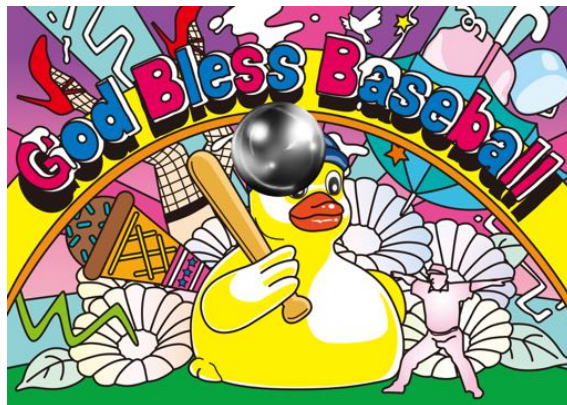
振子びじん 1980年秋田県出身。2004年まで大駱駝艦に所属し、舞踏家・鷹赤兒に師事。退団後、自身の体に微視的なアプローチをするソロや、体を物質的に扱った振付作品を発表する。近作に郷里の母親にダンスをレクチャーする『おかあさんといっしょ』（2010）、本人のアルバイト生活経験に基づいた『モチベーション代行』など。

野津あおい 1985年東京都出身。俳優・ダンサー・コレオグラファー。五反田団や柴幸男主宰のままごとなどに出演。08年松井周主宰のサンプル『家族の肖像』で出演、11年よりサンプルに正式に参加。近年は若手劇作家の作品にも多数出演。

公演概要

『God Bless Baseball』

会場 あうるすぽっと
日時 2015年11月
19日(木) 19:30
20日(金) 19:30
21日(土) 17:00 ★
22日(日) 14:00
23日(月祝) 19:30
24日(火) 19:30
25日(水) 19:30
26日(木) 15:00★
27日(金) 19:30
28日(土) 14:00
29日(日) 14:00



(C)Ruka Noguchi

★ポスト・パフォーマンストークあり ※受付開始は開演の1時間前、会場は30分前

上演言語 日本語・韓国語 (日本語、韓国語、英語字幕あり)

チケット ※全席指定

一般前売 4500円 5演目セット 3700円 3演目セット 4000円 学生 3000円 高校生以下 1000円
当日 5000円

チケット取扱 <http://www.festival-tokyo.jp/15/ticket/>

クレジット

作・演出：岡田利規 / 翻訳：イ・ホンイ

出演：イ・ユンジエ、振子びじん、ウィ・ソンヒ、野津あおい

舞台美術：高嶺 格 / 衣裳：藤谷香子(FAIFAI) / ドラマトウルク：金山寿甲(東葛スポーツ)、イ・ホンイ

舞台監督：鈴木康郎 / 照明：木藤 歩 / 音響：堤田祐史(WHITELIGHT) / 映像：須藤崇規 / 宣伝美術：野口路加

声：ジェローム・ヤング / 制作：黄木多美子(プリコグ) / 製作：プリコグ、チェルフィッチュ

国際共同製作：Asia Culture Center - Asian Arts Theatre, フェスティバル/トーキョー、Taipei Arts Festival,

国際共同製作賛助：FringeArts, Philadelphia; Japan Society, New York; Museum of Contemporary Art Chicago; The Clarice Smith Performing Arts Center at the University of Maryland; Wexner Center for the Arts at The Ohio State University

リサーチ・ワークショップサポート：Doosan Art Center

協力：城崎国際アートセンター、急な坂スタジオ、サンプル

Asia Culture Center - Asian Arts Theatre 委嘱作品

東京公演

制作 黄木多美子(プリコグ)、岡崎由実子、十万亜紀子(フェスティバル/トーキョー)

主催 フェスティバル/トーキョー

今後の上演スケジュール

2015年11月19日(木)～29日(日) 日本初演 フェスティバル/トーキョーにて上演

2016年1月14日(木)～2月13日(土) アメリカツアー (ニューヨーク、フィラデルフィア、シカゴ、コロンバス、メリーランド)

6月 Festival Theaterformen (ブラウンシュヴァイク/ドイツ)

9月 Taipei Arts Festival (台北/台湾)

岡田利規 東京滞在スケジュール

11月1日(日)～11月7日(土) / 11月12日(木)～12月1日(火)

是非、ご取材・インタビューをご検討ください。上記期間外でも、電話・スカイプ取材、メールインタビューなど対応いたします。お気軽にご相談ください。

初演の舞台写真

(C)Asian Arts Theatre (Moon So Young)



クリエイションレポートWEB ウラGBB <http://ura-gbb.tumblr.com/>

本作のドラマトゥルクであり、自身が演出家でもある金山寿甲(東葛スポーツ)が、創作の舞台ウラや作品の素材となる(?)ネタなどを投稿するクリエイションレポートサイト。2015年1月～2月に行われた韓国での滞在制作の振り返りから、8月から本格化したクリエイションの様子や9月の韓国初演の反響、キャスト・スタッフの知られざる素顔まで、他の誰にも書けない痛快なウラ話を配信中です。